

第4章 あたご部門高等部の 研究

～系統的な年間指導計画の再編成と

国語科、数学科の単元別指導計画表の作成～

第4章

あたご部門高等部の研究

1 研究の方法

- コース制導入に伴い、昨年度、作成した年間指導計画を活用しながら、生徒の実態に応じた系統的な年間指導計画へ再編成に取り組む。
- 年間指導計画を基に、「育成を目指す資質・能力」の三つの柱で整理した、国語科または数学科の単元別指導計画表の作成を行う。
- 本校のカリキュラム・マネジメント概念図のPDCAサイクルに基づき、作成した単元別指導計画表を活用した授業実践や、その授業研究会を通して単元の見直しを図り、授業改善へつなげる。

以上の3点を通して、研究を行い、次のように研究仮説を立て研究を進めることにした。

<研究仮説>

新学習指導要領の改訂を踏まえた年間指導計画の再編成を行い、国語科または数学科の単元別指導計画表の作成をすることを通して、高等部3年間において、生徒が「何を学ぶか」「何ができるようになるか」ということを明確化、また具現化できるのではないかと。

2 研究の経過

月	内容
4月	○昨年度の研究内容と今年度の研究内容についての確認
5月	○単元別指導計画表の記入の仕方についての共通理解 ○年間指導計画の加除・修正の仕方についての共通理解及び分担 (学年・コースごとに教科、グループ)
6～8月	○単元別指導計画表の作成の分担 (学年・コースごとに国語科または数学科、グループ) ○単元別指導計画表の作成及び提出
9～10月	○単元別指導計画表の作成
11月～ 12月	○研究授業・授業研究会(数学科)の実施 ○単元指導計画表についてグループ協議 ○単元別指導計画表の作成及び提出 ○次年度の年間指導計画の分担(学年・コースごとに教科、グループ)
1月	○単元別指導計画表の作成 ○今年度の年間指導計画の加除・修正及び提出 ○次年度の年間指導計画の記入の仕方についての共通理解 ○次年度の年間指導計画についてのグループ協議 ○次年度の年間指導計画の作成及び提出

3 研究の実際

(1) 年間指導計画の作成

今年度からコース制が始まった。年度当初に、「いつ」「どのように」「どのくらいの時数で」授業を実施したのかを把握して、次年度に生かしていく必要があることを、全職員に共通理解を図った。そこで、学年・コースごとに、教科及び学習グループの担当を割り振り、現行の年間指導計画の加除・修正を行うようにした。加除・修正した年間指導計画は、学期ごとに提出日を設け回収した。

今年度、2・3年生は、国語・数学は、縦割りグループでの学習指導を行ったが、来年度は学年ごとの学習グループに戻して実施することになり、年間指導計画の再編成が必要になった。そのため1月からは、新たに職員を振り分け直し編成を行なった。来年度の年間指導計画の編成にあたっては、新学習指導要領を踏まえた指導内容を盛り込んで作成すること、また、回収した年間指導計画と昨年度の年間指導計画を参考にしながら編成作業を進めることとした。さらに、グループごとに系統性や指導内容、指導時数について協議、検討を行い、来年度の年間指導計画の作成をした。

【表1：令和元年度 学習グループ数の一覧】

授業名	1年	コース				
		総合		職業		生活
		2年	3年	2年	3年	2年
自立と共生	—	—	—	1	1	—
生活単元学習	4	3	3	—	—	1
国語	5	5		2		1
数学	4	4		2		1
音楽	1	—	※1	—	※1	1
美術	1	2	※2	※3	※2	—
保健	4	3	3	1	1	—
体育	1	1		1		—
職業	4	2	3	1	1	—
家庭	4	3		1		—
総合的な学習(探求)の時間	1 2					
自立活動	4	教育活動全体を通じて行う				1
作業学習	5			2		※4

※1 - 選択で実施し、1年生と合同

※3 - 総合コース2年生と合同

※2 - 選択で実施し、総合コース2年生と合同

※4 - 1年・総合コースと合同

(2) 国語科または数学科の単元別指導計画表の作成

はじめに、新学習指導要領で示された「社会に開かれた教育課程」を実現するために、指導内容を整理することや、「知識・技能の習得」「思考力・判断力・表現力の育成」「学びに向かう力・人間性等の涵養」の育成を目指す資質・能力の三つの柱で各授業実践を行う必要があることを職員で共通理解を図った。指導内容や三つの柱を整理するためのツールとして、単元別指導計画表を作成することとした。単元別指導計画表の様式については、あたご高等部の実態に合わせた形式で作成した。

単元別指導計画表は、国語科または数学科で、学年・コースの学習グループで職員分担を行って作成した。作成した単元別指導計画表は共有フォルダに保存し、成果物として次年度からの指導等に活用していく。

(3) 単元別指導計画表を活用した授業実践及び研究協議

作成した数学科の単元別指導計画表を基に総合コース B グループにおいて「長さ」の単元で研究授業を行った。単元別指導計画表を作成したことにより、「いつ」「どのような」指導をするのが明確になり、生徒が学習の見通しや目標をもって学習することにつながったと考える。

授業研究会では、学習活動や活動のねらいを具体的に表記する必要があるという意見（資料 1 ※ 1）や、学習グループの生徒の実態に幅があることから、単元の時数を増やす必要があるのではないかという意見（資料 1 ※ 2）が出された。これらの意見を受けて授業者で話し合い、指導内容の修正及び単元の時数の変更を行った。このことが一人一人の生徒の実態に即した学習内容となり、定着につながったと考える。また、「長さ」、「重さ」などの生活に即した単元は、生徒の実態に応じて必要な時数を確保することが重要であるとの意見が出された。そのため、グループで協議を行い、新学習指導要領の高等部段階では、「長さ」、「重さ」の内容は取り扱っていないが、次年度、総合コースでは指導時数を増やすようにした。今回の授業実践で、単元の構成や年間指導計画の修正につながった。課題としては、教科によって学習グループの生徒や担当する教員が変わるため、今回の授業に限らず、担当教員間で目標や評価を共通理解する時間が取れていない。（表 1）

さらに、その後の研究会で①「目標・学習内容・評価の設定は、育成すべき資質・能力の三つの柱に沿っていたか」②「支援(手立て)は、主体的・対話的で深い学びであったか」を、学年ごとに分かれてグループ協議を行った。①の良かった点としては「学習指導要領の数学科の目標に示されている内容を網羅している」、改善点としては「生活の中で、長さを測る場面はいつかを、考えさせる学習内容があってもよい」という意見が挙げられた。②の良かった点としては「教師の具体的な発問によって対話的な学びができていた」、改善点としては「主体的・対話的で深い学びに関する記述を配慮事項へ記入するとよい」などの意見が挙げられた。このような協議の結果、育成を目指す資質・能力の三つの柱に沿った視点での授業づくりや主体的・対話的で深い学びの授業を行う視点について教師が考えることができ、教師の資質向上につながったと考える。

4 まとめと研究の課題

高等部3年間で「何を学ぶか」については、年間指導計画の再編成を全ての教科で行った。今年度の年間指導計画を基に学習した単元、または未学習の単元を洗い出し、さらには新学習指導要領を踏まえて指導内容の加除、修正を行った。また、今年度は2・3年生の国語科と数学科を縦割りのグループで行った。しかし、学部で検討し様々な課題があり、来年度は30年度まで実施していた学年ごとのグループ編制になる。そのため、大幅な年間指導計画の修正が必要になった。現在、数学科で活用している段階別指導内容を、今後は他の教科においても同様に活用する方向で考えており、併せて、新学習指導要領の段階に合わせた年間指導計画を作成していくことが課題である。

「何ができるようになるか」については、育成を目指す資質・能力の三つの柱を視点にもち国語科または数学科の単元別指導計画表の作成に取り組んだ。職員向けアンケート結果から、単元ごとの目標設定に難しさを感じるが、単元における目標や指導内容が明確になり、単元の構成が整理されるという意見が挙げられた。課題としては、単元別指導計画表を、作成する時間を確保することの難しさが挙げられた。今後の展望としては、国語科と数学科だけでなく、他の教科の単元別指導計画表も順次作成していきたい。

今年度は、数学科の研究授業、授業研究会の実践を通して、単元別指導計画表の修正を行ったことで、授業改善につながった。このようなPDCAサイクルを全職員が個人のレベルで効果的に行っていくことが大切だと考える。

来年度は、

- ・新学習指導要領の段階に合わせた年間指導計画の作成を行う。
- ・国語科と数学科以外の単元別指導計画表の作成を行う。
- ・コース制の振り返りを行い、課題を洗い出し、教育課程の改善につなげる。

以上の3点を中心に研究を行い、社会に開かれた教育課程の実現に向けたカリキュラム・マネジメントの視点をもち、研究に取り組んでいきたい。

<参考文献>

○文部科学省 特別支援学校高等部学習指導要領（平成31年2月告示）

【検討前】

単元別指導計画 (数学)

学 年 2・3 年生 総合 コース (B) グループ

単元名 (長さ) 記載者 (森山)

生徒氏名												
単元目標	A (知識・技能) 長さの単位について理解し、計器を用いて長さを測定することの技能を身につける。 B (思考・判断・表現) 身の回りの物を長さに目目して長さ、長さの単位を用いて的確に表現する。 C (学び・人間性) 長さの単位に意味や価値を見出し、生活の中で活用しようとする。											
題材	学習活動・活動のねらい 長さを表す単位 ・1mm (1 cm) (1 m) (1 km) ・1mの長さのテープ ・ものさしの使い方 ・定規											
授業日	11月21日	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
①	身近なものの測定 ・身の回りのものから長さを測定するものを選び、グループごとに適切な計器を使って長さを測定させる。 ・実際の長さを測定する前に、自分で考えて身の回りのものを立て、グループの中でどれが実際の長さの測定に最も近い予想を立てることができたらかを競うようにする。											
授業日	11月27日	11月28日	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
②	単位の換算 ・前時までの学習で得た長さを表す単位の感覚を生かして、換算単位の何倍かを考えることができるようにする。											
授業日	12月2日	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
③	長さの単位について理解し、目的に合った計器を選んで正しく測定することができたか。 身の回りの物の長さを予想し、実際に測った単位を用いて正しく表すことができたか。 単元の学習の自己評価をさせる。											
単元評価	A (知識・技能) 身の回りの物の長さを測定することの技能を身につけたか。 B (思考・判断・表現) 身の回りの物の長さを予想し、実際に測った単位を用いて正しく表すことができたか。 C (学び・人間性) 単元の学習の自己評価をさせる。											
反省	生徒の変容											

※ 1

※ 2

【検討後】

単元別指導計画 (数学)

学 年 2・3 年生 総合 コース (B) グループ

単元名 (長さ) 記載者 (森山)

生徒氏名												
単元目標	A (知識・技能) 長さの単位について理解し、計器を用いて長さを測定することの技能を身につける。 B (思考・判断・表現) 身の回りの物を長さに目目して長さ、長さの単位を用いて的確に表現する。 C (学び・人間性) 長さの単位に意味や価値を見出し、生活の中で活用しようとする。											
題材	学習活動・活動のねらい 長さを表す単位 ・1mm (1 cm) (1 m) (1 km) ・1mの長さのテープ ・ものさしの使い方 ・定規											
授業日	11月21日	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
①	身近なものの測定 ・身の回りのものから長さを測定するものを選び、グループごとに適切な計器を選んで長さを測定させる。 ・実際の長さを測定する前に、自分で考えて身の回りのものを立て、グループの中でどれが実際の長さの測定に最も近い予想を立てることができたらかを競うようにする。											
授業日	11月27日	11月28日	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
②	単位の換算 ・前時までの学習で得た長さを表す単位の感覚を生かして、換算単位の何倍かを考えることができるようにする。											
授業日	12月2日	12月5日	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
③	長さの単位について理解し、目的に合った計器を選んで正しく測定することができたか。 身の回りの物の長さを予想し、実際に測った単位を用いて正しく表すことができたか。 単元の学習の自己評価をさせる。											
単元評価	A (知識・技能) 身の回りの物の長さを測定することの技能を身につけたか。 B (思考・判断・表現) 身の回りの物の長さを予想し、実際に測った単位を用いて正しく表すことができたか。 C (学び・人間性) 単元の学習の自己評価をさせる。											
反省	生徒の変容											